

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こまどカレッジ			
○保護者評価実施期間	R8年1月13日 ~ R8年1月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数)	17名
○従業者評価実施期間	R8年1月13日 ~ R8年1月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	10名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月4日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	利用者やその保護者に寄り添った支援をおこなえている。また利用者を十分に理解し、利用者の特性等に応じた専門性のある支援をおこなっている。	職員同士での意見交換の場を設けて、よりよい支援が行えるよう心がけている。また保護者や学校等関係機関との情報共有を行い、利用者の成長につながるように努めている。	職員一人一人の専門知識を深めるために、研修会の参加やチームとしての統一性、また保護者や学校等関係機関との連携をより一層深めるようにする。
2	複数の資格所有者が勤務しており、様々な視点をもった指導と体験の場が提供出来る。	職員のストレスケアや、風通しのよい職場環境づくりを意識している。	より充実した支援に繋がるように、事例検討や打ち合わせにて利用者の情報共有を更に深める。
3	就労アセスメントや不登校支援について、実績をつんできており今後もより専門性を高めたい。	中高生の利用者がほとんどであることから、思春期、社会人への移行期にあわせた活動内容とその提案をしている。就労アセスメントの専門家による学習会を企画実施した。	今後も各学習会や関係機関との連携を継続する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者同士のつながりや地域との交流が不足している。	保護者会(保護者が来やすい行事など)が行われていない。利用児童が中高生がほとんどであり保護者も就労している家庭がおく、集合形式の集いの場の開催時間帯の設定がむずかしい。	保護者が来やすい環境づくりや、地域住民との交流会を開けるようにする。
2	時差出勤の為、情報共有が完璧に行われていない。	時差出勤で全体に情報がいきわたりにくい。社内SNSで共有に努めているが、文章では伝わりにくい内容や既読漏れのリスクもある。	みんなが集まるる時間帯を作り、確実に情報共有できる場を設ける。またZOOMなどを利用してその場に参加できない職員もオンラインで参加できる環境を作る。
3	退勤前の情報共有する時間が確保できない。	送迎範囲が広い為、退勤前にその日の振り返りの情報共有が行いづらい。	朝の時間を使って全体ミーティングを行い、情報共有を継続し、より効率化をはかる。